

二月の法座・行事

二日・実如上人御祥月御命日
六日・彰如上人御祥月御命日
八日・現如上人御祥月御命日

十日・同朋の会例会（午後二時）

大阪教区第七組

長教寺住職

稲垣 洋信 師

十二日・闍如上人御逮夜・常永代経

（午後一時半）

十三日・闍如上人御命日（午前八時）

二十二日・常如上人御祥月御命日

二十四日・正信偈書写の会（午前十時）

・定例法話（午後一時半）

大阪教区第十四組

本行寺住職

小谷 淳也 師

二十五日・善如上人御祥月御命日

二十七日・宗祖聖人御逮夜（午後二時）

二十八日・宗祖聖人御命日（午前八時）

◆敬 弔

生前の遺徳を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

法名 大道院釋超昇

俗名 飯田 昇

十二月二十六日寂 享年六十五歳

法名 松溪院釋瀧暁

俗名 立松 瀧三郎

一月十日寂 享年八十三歳

今月の天満別院伝道掲示板

悩みがなくなることが

救いではない

共に悩めることが

救いです

安田理深

編 集 後 記

ある記事を読み、高齢者の6割は「自宅で死にたい」と考えているが、実際に病院で最期を迎える人が8割を超えていると知った。

最期を住み慣れた我家で過ごすことは本人にとっても家族にとっても望ましいことだと思っています。

ただ「最期は家で」と家族で話していても、現実の介護問題に直面した時、老人ホーム等の施設を頼らざるを得ないことも多いと思います。その場合、望ましくない最期かと言えば、決してそうではありません。どこで死のうと死に場所が大事ではなく、どう生きたかが大事なこともありません。

H

六字城

発行

真宗大谷派（東本願寺）

天満別院

大阪市北区東天満一―八―二六

電話 六三五―一三五三五

代表者 輪 番 武宮 信勝

「和讃のおはなし」

真宗大谷派 鍵役

宣心院 大谷 暢文

『勢至讃（七）』

われもと因地にありしとき

念仏の心をもちてこそ

無生忍にはいりしかば

いまこの娑婆界にして

（私が以前、超日月光仏のもとで修行をしていた時、念仏三昧によったからこそ、無生法忍の境地に入ることができ、いまこの娑婆世界にあるのです。）

このご和讃は『首楞嚴經』の「われ本、因地にして、念仏の心をもって無生忍に入る、いまこの界において」をもとにしています。

ここでの「われ」とは、勢至菩薩を

指します。基本的に菩薩には、因地あるいは因位という期間があります。因地（因位）は、菩薩が仏の悟りを開くために願を建てて行を修める期間のことです。正信偈に「法蔵菩薩因位の時、世自在王仏の所にましまして」とあるように、法蔵菩薩は、世自在王仏のもとで四十八願というご本願を建て、それを成就されて阿弥陀仏となられました。勢至菩薩は超日月光仏のもとでご修行なさったのです。そこで「念仏の心をもちて」とあるように、念仏三昧を行われました。そして念仏三昧によつて無生法忍に入られます。無生法忍とは、もともと修行なさっている菩薩の位をあらわします。菩薩は五十二の位に分かれますが、この無生法忍は八地以上の上位の菩薩をいいます。

とところがこの『首楞嚴經』のように、真理にかない形相を超えて不生不滅の真実をありのままに悟ることをいうこともあります。このような意味で考えると、私たちはどうしても姿・形にとられやすいといえるでしょう。姿・形にとられるからこそ真実の姿が見えないのです。姿・形にとられる心を離れることが「無生」です。そして、ものごとの道理を認識して悟り、心をそこに安んじて動かないことが「忍」です。

親鸞聖人は、このご和讃の「無生忍」のところに「不退の位と申すなり。かならず仏となるべき身となるとなり」と注釈されています。『首楞嚴經』では、勢至菩薩が超日月光仏のお浄土での悟りとして無生法忍に入ったことを言っているのですが、親鸞聖人はそれを念仏者と見て取つて、念仏者が信心をいだくところに、お浄土において悟りを開けるということが決定する、不退転の位に入る利益を前面に立てます。親鸞聖人は『首楞嚴經』の勢至菩薩を念仏者と見立ててこのご和讃をお造りになつてゐるのです。

霊園・墓石



株式会社太田石材店

本社 〒536-0001 大阪市城東区古市1丁目23番20号
本店 〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目2番18
TEL 06-6930-5075
0120-30-5075
FAX 06-6930-5078

◆天満別院新年互礼会

去る一月二十日（日）に太閤園淀川邸に於きまして、平成三十一年天満別院新年互礼会を開催いたしました。

新年互礼会には天満別院責任役員・ご門徒・崇敬寺院の方々、二十四名にお越しくださいました。

開会の言葉の後、昨年能慈院ご夫妻のもとでの報恩講御参修において、皆々様の御尽力をいただき、帰敬式をはじめ、沢山の方々とご法縁を結ぶことができたことへの御礼と、新年を迎え新たな気持ちで別院の諸教化事業に対して更なるご協力を賜り、ご一緒に同朋教化を推進して参りますと武宮輪番から挨拶がありました。

その後、別院責任役員 奥林 曉氏の新年挨拶では、青年と老年を対比したお話しをいただき、門徒会会長 宇野 善昭氏の乾杯の音頭で会食歓談となりました。



天満別院新年互礼会 太閤園淀川邸

最後には別院責任役員 榎屋 義雄氏より崇敬寺院の方々には、我々門徒を更にお育てくださるようご指導ご鞭撻の程をお願いしますとの閉会の挨拶があり、おひらきとなりました。

◆てらこんネットワークのお知らせ

お寺で婚活！？お寺でコンパ！？

2019冬春会 てらこんネットワーク

てらこん・福2019冬春会 各会場のテーマ

- 1st大阪 1月27日（日）16時～ 20～30代の男女一週に集合～！お寺さんも、門徒さんも、一般の方も
- 2nd京都 2月24日（日）15時～ 結婚！寄り合い！希望の30～50代の男女集まします
- 3rd山陽 3月18日（月）15時～ 人生の、そして お食事を次の世代へ手渡してゆく パートナーをお見合いの40～50代の方
- 4th四国 4月22～23日（一泊） 四国で楽しく一泊でてらこん！ 親近型新婚型 案内希望の方はご連絡ください！ 詳しくは裏面に詳しく載っています！

てらこんの集まりは三津市から、豊後ではお寺に集う若者で中核は若者です！

真宗大谷派近畿連区坊守様方の有志で、結婚を目的とした「てらこんネットワーク」が2018年の夏に引き続き、「2019冬春会」として全4回企画されました。

その第1回目となります「2019冬春会 てらこんネットワーク」が先日天満別院を会場として開催され、20～30代の男女40名程の方が参加されました。一人でも多くの方が結ばれることを願っています。

次回は京都、真宗大谷派 東光寺を会場に2月24日（日）に開催されます。詳しく知りたい方は天満別院ホームページに「てらこんネットワーク」の記事を掲載していますのでご確認ください。

◆定例法話開催の報告

去る一月二十四日（木）の十三時半より天満別院本堂にて定例法話が開催されました。今回は歌と法話が交差する音楽法話は別院としては初めての試みでした。

御講師には、大阪教区第十三組即念寺住職 洲崎 善範 師と弾き語りリストの角谷 早音 美 師にお越しいただき、お浄土を荘厳する三具足に関するお話し等、音楽とコラボし、多くの方が熱心に楽しく聴聞されました。

◆門徒会婦人部による「おぜんざい」接待

定例法話の後には、例年のごとく門徒会婦人部の方々にご協力賜り、前日より準備してくださった鏡餅による「おぜんざい」の接待がありました。お正月にお飾りしたお餅をみなさんと一緒にいただきました。天満別院婦人部の皆様、またお手伝いをいただきました方々に厚く御礼申し上げます。

輪番雑感

「出遇い」から問われること

輪番 武宮 信勝

人生とは「こんにちは」「さようなら」である。——生前、父が口癖のようによく言っていた言葉である。今年その父の二十五回忌を迎える。今改めてその言葉の響きを聞き直してみたいと思う。想えば、日々人に出会わない日は一日たりともない。言葉をかけあわない人を含めれば、本当に数えきれない沢山の人々と出会ってきた。長生きをすればするほどその数は底知れないことになる。ただ出合いの数ではなくてその質の問題である。「あう」という文字には、「合う・会う・遇う・逢う・遭う・値う・偶う」等と内容によって使い分けがなされて

いるが、宗祖は「遇い難くして、今遇うことを得たり」とか「もうあいかたし値遇」と言われているように「遇う」という文字を大切にされている。「遇う」という言葉の意味には、たまたまにしているとか予期もせんことにあうということからして、日頃の出会いはなく、そのことにあうことによって、思いもよらず大切なことにあう、更にいうならば、今迄の人生観が全くひっくり返される、いわば衝撃的なであいに「出遇う」と表現されている。

宗祖親鸞聖人は、「阿弥陀如来の化身」と仰がれた法然上人に出会うことによって、本願念仏に出遇われたのでありましょう。それは自力回向から他力回向への転換でもあった。「本願を信じ念仏を申す」という無碍の一道に立たれたのでありました。具体的にはどこまでも賢者ならず凡愚の身として、その生涯を歩まれ続けられたのであります。

私は曾て、人生において「何とあなたは、愚かなる人ぞと言われるお方に」出遇うことがとても大事なことと言われた恩師の言葉を忘れることができません。

「人は出遇いによって育てられ、別れによって深められる。」

次号は「別れ」について雑感を述べさせていただきます。